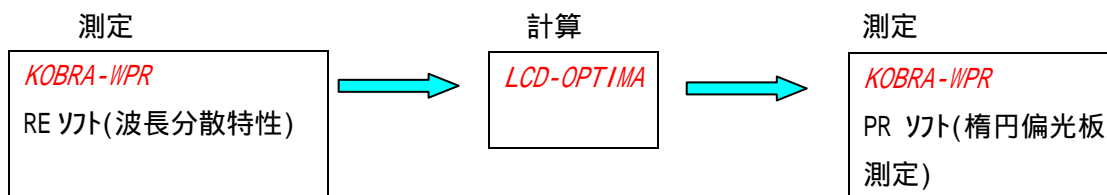


12. 位相差 100nm の位相差板 3 枚を用いた直線偏光の変換実験



手順;

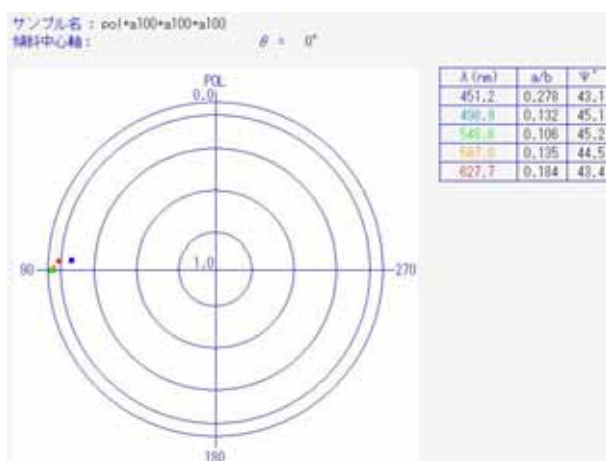
RE ソフトのメニュー- 3. 波長分散特性を使用して、位相差板の波長分散式を求めます。
得られた分散式を LCD-OPTIMA ソフトに登録します。

LCD-OPTIMA ソフトで R1 ~ R3 をすべて 100nm、 1 ~ 3 をすべて 0° ~ 90° の範囲 1° 刻みで、各条件の下に計算すると、それぞれ 1 ~ 3 の結果は次のようになりました。

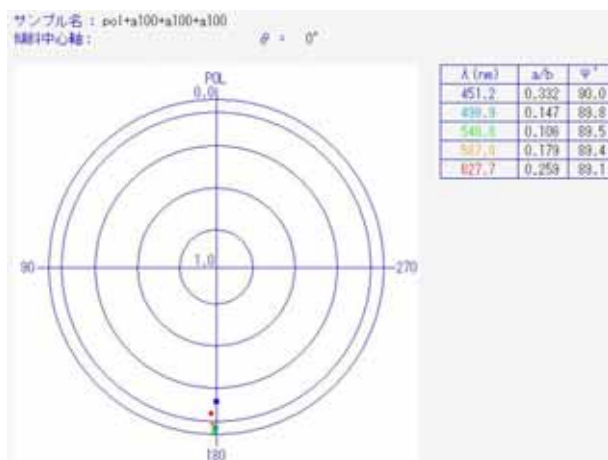
最適化条件	1	2	3
方位 45° の直線偏光	35	6	25
方位 90° の直線偏光	25	55	42
方位 135° の直線偏光	35	84	65
円偏光(右回転)	16	16	73

実際に 100nm の位相差板 3 枚をそれぞれの遅相軸が で得られた 1, 2, 3 になるように順に偏光板の上に重ね合わせたものを、PR ソフトのメニュー- 1. 楕円偏光板測定で実測すると、次のようになり目標の偏光状態になっていることがわかります。

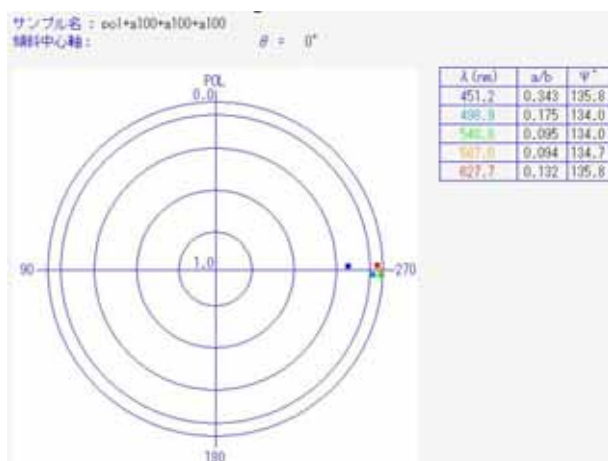
方位 45° の直線偏光



方位 90° の直線偏光



方位 135° の直線偏光



円偏光

